

教科等研究会（中学校美術部会） 平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

どの子ども楽しく『見つめ・感じ・つくりだす』授業づくり

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
5/25	6人	御船中	8/16	御船中	実技研	11/9	嘉島西小	宮本亜弓 教諭	1/26	御船中	野口良美 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

中学校美術部会では、10年前から小学校図画工作部会と連携して研究を進めている。今年度も、平成27年度の熊本県図工美術教育研究大会西ブロック大会（宇城・上益城大会）から継続している研究内容を引き継ぎ、上記のテーマでユニバーサルデザイン化を意識した授業づくりに取り組み、小学校・中学校が協力して研究を深めてきた。

研究の主な内容は、小学校、中学校それぞれ一本ずつの研究授業を実施した。また、夏季休業日には実技研修会と授業実践の交流、作品研究会を実施した。

①授業研究会について

小学校からは嘉島西小学校の宮本亜弓教諭、中学校からは御船中学校の野口良美教諭が研究授業を実施した。小学校の授業を中学校の会員が、逆に中学校の授業を小学校の会員が参観し、授業検討を行うことで、新鮮な意見交換や小・中学校それぞれの立場では気が付かなかった新しい視点での授業づくりが検討されることにとても大きな意義を感じることができた。

②実技研修会について

夏季休業日に行った実技研修会では、前述のように午前中は熊本県図工美術教育研究会元会長である宮崎不二男先生を講師としてお招きし、一版多色刷り版画についての実技研修会を実施し、制作から刷り方までのポイントや注意点などを詳しく学ぶことができた。2時間ほどかけて作品を仕上げ、鑑賞会まで行うことができた。会員の感想の中にも「ぜひ授業の中で扱ってみたい」といった意見が多く聞かれた。



実技研の様子

③実践報告会について

午後は会員それぞれの授業作品を持ち寄り授業実践報告会を行った。会員の感想の中にも、「他の学校の指導作品が見れてその指導法についていろいろな話を聞くことができ、とても参考になった」「中学校の指導方法から小学校で付けておくべき力がどんなものなのかを具体的に考えるいい機会となった」等の意見が多く聞かれた。



実践報告会の様子

(2) 成果と課題

○成果

- ・小・中合同で研究を進めるようになって10年近く経つが、ほとんどの会員が校種を超えた授業を参観できるところが非常に魅力的であると感じている。
- ・授業研究会の持ち方を質疑応答等ばかりでなく、グループディスカッション形式にすることで全員参加型の研究会にすることができた。会員それぞれのアイディアを聞くことができ大変参考になったと感じている会員がほとんどである。
- ・今年度も昨年度に引き続きUDを意識した授業づくりをテーマにすることにより、どの子ども楽しく授業に参加できる授業のあり方を追求できた。

○課題

- ・中学校の研究授業では事前研があまりできなかったことで授業者に負担をかけてしまった。もう少し計画的に事前研のスケジュールを練っておけばよかった。
- ・実技研の内容についてはどうしても専門外が多い小学校中心の内容になってしまうので、中学校の会員は少々物足りなさを感じてしまう。来年度は小・中別の内容にしたり、中学校会員がそれぞれの得意分野の講師となり、小学校の会員とともに学び合うことも検討していきたい。
- ・中学校美術部会の会員数が学校数と比較して少なく、上益城郡の美術教育を高めるためには専門教員数を増やす必要性を感じる。

3 実践事例

(1) 授業の概要

中学校からは、御船中学校の野口良美教諭による第2学年の鑑賞授業「日本の美の発見～金剛力士立像～」の研究授業を行った。2月に行われる修学旅行で東大寺南大門の金剛力士立像を実際に見るということを前提にした内容であった。ダビデ像との比較鑑賞をすることによって、日本の文化遺産の力強さや誇張表現を子どもたちに気付かせていくといった内容であった。



中学校研究授業の様子

①自評及び質疑に対する説明

- ・準備を万端にして授業に望んだつもりであるが、準備不足であった。修学旅行で見に行きたいと思ってほしい生徒を一人でも多くつくりたいと思いながら、授業内容を検討した。金剛力士立像の力強さや緻密さが伝わればよいと思い授業を行った。
- ・鑑賞活動は毎回授業の最初に5分間やっているのですが生徒は慣れている。いつもは平面の絵画作品ばかりであり、今回が初めての立体作品ということもあり、作品の提示の仕方、作品のよさが十分に伝わったかどうか心配である。
- ・内容が盛りだくさんすぎて、時間が全然足りなかった。十分な時間を残して主発問以降の学習活動を行うべきだったのだが時間が全く取れず。深めることができなかった点を反省している。
- ・日頃取り組んでいる5分間鑑賞では、5W1Hの説明をして、自分なりの考えや意見が書けることを大切にしている。作品を2分間くらい見せワークシートへの記入、発表という流れで行っている。
- ・比較鑑賞作品をダビデ像にした理由は、表情が一番伝わりやすいし、筋肉の部分に目がいきやすい、表情、筋肉ともに力強さを強調しているという共通点があるからである。
- ・鑑賞の評価については難しさを感じているが、事実だけでなく自分なりの推測や考えを持つことができれば、おおむね達成できたと評価している。



グループディスカッションの様子

②授業研究会後の感想

- ・この授業を通して修学旅行に行き本物を鑑賞する。そのこと自体が宝である。西洋美術にはあまり見られない、力強さや誇張表現に気付く生徒がたくさんいるであろう。
- ・ベン図を使って共通点や相違点を出していく作業がとても興味深く、小学校でも使えると思った。有名な作品を改めて詳しく見ていくのは楽しいと感じた。修学旅行で実物を見ることができるのがとても良いと思った。
- ・UDのすばらしい授業だった。手だてが数多くあり、子どもたちが意欲的に取り組んでいた。鑑賞の視点を子どもと考え、すぐに主発問にいてもよかった。同じような活動がいくつかあったので気になった。
- ・グループでたくさん意見が出ていたので、さすが中学生だと思った。
- ・2つの作品の比較やベン図のようなツール、ミケランジェロが金剛力士像を見て何と言ったか等、いろいろな手立てを入れて学習をすすめられてすごいと思った。その丁寧な手立てにとても感心した。

M・UD 学習プラン

2年2組 美術 野口 良美

- 「発見！日本の美～金剛力士立像～」(本時2／2)
- 場所 美術室

【指導の工夫】

目標行動 運慶作『金剛力士立像』の比較鑑賞を通して作品のよさや美しさを自分の言葉で表現することができる。 鑑賞の能力	●予想されるつまずき 作品鑑賞時に自分の考えや感想を持つことができない ●達しない生徒への手立て 西洋のルネサンス美術のリアリズムと比較することで作品の魅力に気付くことができる。
---	--

過程	学習活動(分)	発問・指示・説明	UD等・指導の工夫
導入	① 「怒り」をテーマにポーズを考える。 (班3分) 本時の作品を知り、同じポーズを試みる。	「怒りをテーマにした作品をつくるなら、どのようなポーズにするか班で考えてみましょう。」	【視覚化】 ・自分達で「怒り」のポーズをさせ、見せ合いながらイメージ化する。
	【TQ】運慶は『金剛力士立像』にどのような表現の工夫をしたのだろうか？		
学び合い1	② 金剛力士立像の気付きを記入し発表する。 (個→ペア→全体5分) ③ ミケランジェロ作『ダビデ像』を比較鑑賞し、それぞれの特徴を見付ける。	「金剛力士立像を鑑賞し、どのような点に気付きましたか。」 【主発問】 もしもミケランジェロが金剛力士立像を見ていたなら何と言うだろう。	【焦点化】＜思考ツール＞ ・「表情」「筋肉」に分けて注目させ、比較鑑賞する。
学び合い2	④ グループ内で発表し合って友人の意見を聞き、班の意見をまとめる。	「班の意見をまとめ、発表してください。」	【共有化】 ・他の班の意見を交流し合い、作品に対する考えを広める。 <○評価 鑑賞の能力>
まとめ	⑤ 再度作品を鑑賞し感想を記入する。 <リフレクション> (個→ペア 5分)	「もう一度『金剛力士立像』をじっくり見て今日の授業で考えたことや感じたこと、感想を書きましょう。」	

○評価(生徒観察・ワークシート)

作品のよさや美しさ、また作者の工夫などを感じ取り、考え、対話の中やワークシートで自分の言葉で表現できている。

【支援が必要な生徒のアセスメント】

- A さん 学習に対する集中力が続かない。題材に向かう姿はあるが、集中力が切れると授業中の私語が多くなりがちである。
- B さん 人とのコミュニケーションが苦手で、自分の考えを表現することが苦手である。
- C さん 私語が多いが、作業が明確であると進んで学習に取り組むことができる。

【指導の工夫→個別の配慮】

1 時間を通して

- ・生徒の発表の場面を多く設定し、他者の意見から自身の見方や考え方を深め、広げるようにする。(ABC)

①

- ・ポーズを真似るなどして楽しく学習に参加する雰囲気をつくる。(AC)

②

- ・初発の感想を、全員が発言できる場を設定する。(ABC)

③ ④

- ・ポイントを絞って観賞を行う。(ABC)
- ・グループ学習で全員に発言の機会を与える。(ABC)

⑤

- ・ペアでの対話により、リフレクションさせる。

【学び合いについて】

○学び合い1について

1 課題解決に向けて

時代の違う2つの作品を比較鑑賞することで、当時の日本が持つ技術や表現力などを対話によって追及する授業展開を目指す。

2 思考スキル

2つの作品の違いを考えさせるときに「分類」して考えさせる。

3 思考ツール

相違点に注目できるよう、ベン図を使用し、それぞれの作品の特徴を示していく。

4 課題の解決

「表情」「筋肉」に分けて鑑賞することで、それぞれの特徴をしっかりとつかむことができる。

○学び合い2について

他者の意見を知ることによって新たな発見や学びを得ることができ、自身の考えを深めたり広げたりすることができる。